

カルデラの起源にまつわる神話

蹴って地形を形成

遠い昔、阿蘇のカルデラは湖を擁していました。このカルデラに人が住み農作ができるようになったのは、カルデラの外壁の一部が崩れ、湖の水が流れ出した後のことでした。地元の神話では、この変容は健磐龍命という神によるものとされています：最初、彼はカルデラ東側の中間あたりにある二重峠でカルデラ壁を蹴破って穴を開けようとしていました。さらに、そこから少し南の立野で再びカルデラ壁に強烈な蹴りを入れ、うまく穴を開けることができました。カルデラ壁が崩壊すると、水が流れ出してカルデラは排水されました。

現在の白川と黒川が合流してカルデラから流れ出ている地点は現在立野と呼ばれています。この地名（「立てない」という意味）は、健磐龍命が二度目の蹴りの後、バランスを崩して転んだことに由来するとされています。湖の水を抜くことで、健磐龍命は人々がカルデラの内部で生活し農耕できるようにしました。そのため、健磐龍命は「阿蘇の父」とみなされており、阿蘇山にまつわる十二柱の神々の中で最も重要な神とされています。